

ロオビチビヒラタカミキリや、カッコウメダカカミキリ、アカネカミキリなども得られた。

本種は北海道から九州、対馬のほか、千島列島、極東ロシア、中国東部、朝鮮半島に分布し、北海道以外の産地は局所的でノブドウ等の枯蔓から羽脱するという。

兵庫県ではこれまで未記録と思われるが、近隣の京都府(養老山 1993)、大阪府(箕面 1940、島本町 1994)に古い記録があり、奈良の春日山でも得られている。最近では島根や山梨県からの報告がある。

○参考文献

東 浩司・谷川良寛・望月寛人, 2017. 奈良春日山原始林と周辺のカミキリムシ.

廣田嘉正・三木三徳・八木正道, 1999. 大阪府のカミキリムシ.

廣田嘉正・三木三徳・八木正道, 2001. 兵庫県のカミキリムシ.

岩田隆太郎・水野弘造・常喜 豊, 1993. 京都府のカミキリムシ. 関西昆虫談話会

大林延夫・新里達也, 2007. 日本産カミキリムシ. 東海大学出版会

齋藤勝巳・板倉充洋, 2020. チャイロチビヒラタカミキリを山梨県で発見. 月刊むし, (598): 34-35

氏原靖志, 2021. 島根県におけるチャイロチビヒラタカミキリの記録. すかしば, (68): 34

(Kazou KONISHI 兵庫県西宮市)



図1 チャイロチビヒラタカミキリ①.



図2 チャイロチビヒラタカミキリ② (触角欠損).



図3 枯蔓の絡まった粗朶.

加古川市で越冬明けウラナミシジミを初記録

島崎正美・島崎能子

ウラナミシジミ *Lampides boeticus* (以下、本種) が成虫で越冬することはよく知られているが、兵庫県における本種について「兵庫県の蝶」(2007)には6月以降に第一化が発生するが、それ以前の観察記録はないと記載されている。その後、「加古川の里山・ギフチョウ・ネット」代表の竹内隆氏から、小野市黍田で越冬明けのメス



図1 2021年3月30日: 比較的新鮮なオス.



図2 2021年3月30日: 鱗粉色があせたオス.

個体を2006年3月26日に観察記録しているとの未発表の情報を得たが、そのとき同行されていた立岩幸雄氏によるフィールド日誌にも前翅の先端が鱗粉のはがれた個体だったとの具体的な記述がある。筆者らは2021年3月30日、加古川市平荘町で越冬明けと考えられる本種のオス2個体を観察し、これまでに公式記録がないことが確認できたので報告する。

「兵庫県の蝶」に記載されている通り、本種の加古川市における観察記録もすべて9月以降で、シルビアシジミの生息地でモンキチョウとともにミヤコグサへの本種との三者が競合する産卵もみられる。2020年は10月に加古川市や高砂市で暖地性のクロマダラソテツシジミの偶発もあって、センダングサやヒメツルソバなどで、本種と混じって吸蜜をする場面を多く観察できた。同じ10月に加古川市内の休耕田のあぜ道に多いコガネオタフクマメへの産卵が目立ち、11月下旬から本種の多産につながった。12月になって最低気温が零下となる日が複数日続いて、野外で本種を観察する機会は激減し、2020年の終見は12月2日であった。ちなみに、最近10年間で加古川市での成虫の最も遅い観察日は12月11日となっている。加古川市の公式記録はないため、参考までに姫路市での最高/最低気温を調べると、表1に示すように、最低気温が零下となる日が2020年12月と2021年1月にそれぞれ8日間あって、1月8-10

表1 姫路市の最高/最低気温(°C)

2020	12/16	12/17	12/18	12/20	12/21	12/22	12/23	12/31
最高	8.0	7.8	9.1	9.2	10.8	12.2	12.7	6.7
最低	-0.6	-1.5	-0.4	-0.3	-2.0	-1.6	-0.1	-0.8
2021	1/1	1/2	1/3	1/7	1/8	1/9	1/10	1/11
最高	7.3	9.0	9.9	11.1	3.0	5.1	8	8.1
最低	-1.5	-2.5	-2.1	-0.9	-5.3	-6.9	-5.1	-2.8

日の3日間は零下5度を下回る厳しい寒さとなっている。

本種は秋に発生した個体が暖かい地域から北上して分布を広げる習性があるが、今回観察できた本種(図1, 2)が加古川市内で越冬した個体なのか、強い飛翔力によって温かい南の地域から飛来したものか、その経緯はわからない。観察できたのは比較的新鮮なオスと鱗粉色があせたオスの2個体で、いずれも黒岩山(標高132m)の山頂部に近い岩場でススキ類の枯れた茎や葉上にとまって日光浴をしており、ビデオカメラを準備して近づく気配で飛び立っても、あたりを飛び回ったあと舞い戻って枯れ茎や葉上ですぐに開翅姿勢をとるといった行動を繰り返していた。これら加古川市における初の越冬明け成虫の観察記録を以下に示しておく。

観察日: 2021年3月30日 10-11時

観察地: 加古川市平荘町黒岩山(132m) 山頂近く

撮影者: 島崎正美

本報告に際し、情報提供にご協力くださった近藤伸一氏と竹内隆氏に感謝いたします。

○参考文献

広畑政巳・近藤伸一 2007 『兵庫県の蝶』 331pp.

(Masami SHIMAZAKI 兵庫県高砂市)

(Yoshiko SHIMAZAKI 兵庫県高砂市)

シルビアシジミの珍しい挙動

島崎正美・島崎能子

2021年4月、兵庫県加古川市でシルビアシジミのオスが昼間に休眠中の小型スズメガ科のコスズメ *Theretra japonica* に何度も体当たりの接触を試みる挙動を観察でき、珍しい事例だと思われるので報告する。

シルビアシジミのオスがミヤコグサの自生する草地で低空飛翔をくりかえしてメスを探す(探雌飛翔)光景は、シルビアシジミの生息地ではごく普通にみられる。今回、シルビアシジミの発生状況の調査時、探雌飛翔を繰り返すオスを認め、撮影記録をとることを目的として、



図1 コスズメの胴体に脚で接触。

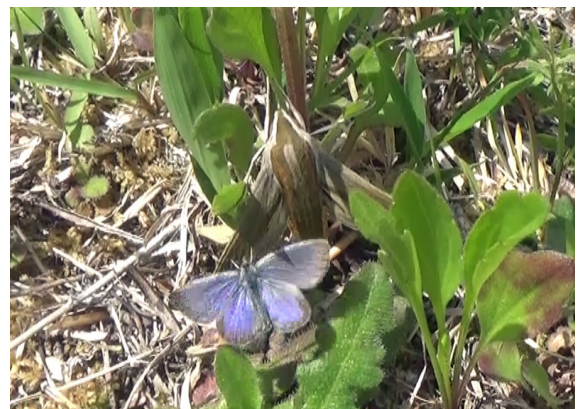


図2 コスズメの左翅に脚で接触。